

当院の無痛分娩について

2019年10月より24時間麻酔科医による無痛分娩に対応することとなりました。
当院における無痛分娩についてご紹介させていただきます。



麻酔科 部長 魚川 礼子

病棟に麻酔科医がいるということ

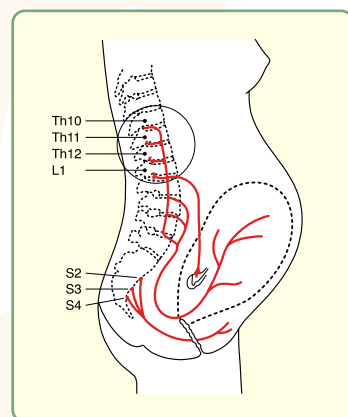
2019年10月より千船病院では無痛分娩を24時間麻酔科医が対応するようになりました。このことにより、妊婦さんは計画分娩だけでなく自然陣発でも無痛分娩を受けることが可能となりました。大阪府下で24時間麻酔科医による無痛分娩を提供しているのは、大阪大学医学部附属病院、大阪府立母子医療センター、関西医科大学附属病院に続いて4施設目となります。

麻酔科医が分娩に携わるということは妊婦さんの分娩時の痛みを緩和するだけでなく、産科医とは異なる目線で全身状態を診ることができる医師が加わることで、より一層妊婦さん、赤ちゃんの安全を守ることができるようになります。当院では産科医、新生児科医、助産師、麻酔科医の4分野の深いコミュニケーションのもと無痛分娩を提供することができます。無痛分娩を安全に行うには理想的な環境だと言えます。

陣痛とは？

分娩には第1期と第2期があります。第1期は子宮口が全開するまでの期間をいいます。この時の痛みは主に子宮の収縮痛となります。子宮の痛みを支配している神経はTH10～L1領域です。そして分娩第2期の痛みは子宮収縮痛に加わり児頭が下降することによる産道への機械的な痛みが加わります。

骨盤内の痛みを支配している神経領域はS2～4となります。分娩の時はTH～S領域の広い範囲の麻酔領域を得なければなりません。(因みにL領域は脚の支配神経となります)



分娩に関連する神経の解剖図

無痛分娩とは？

「無痛分娩」と聞くと痛みも産んだ感覚もないまま出産を迎えるのではないかと、と思われる方も多いのではないのでしょうか。英語では「labor epidural analgesia」と言われ、直訳すると「お産の時の硬膜外麻酔」です。

分娩時に硬膜外麻酔を使用して痛みを緩和するというものであって、痛みをなくしてしまうというわけではありません。

最近の知見

無痛分娩時の麻酔が手術麻酔と大きく異なる点は「痛みはなるべく取り除いて運動神経ブロックは起こさないようにする」ということです。手術麻酔では痛みさえとれていれば運動神経ブロックが生じて問題はありません。硬膜外麻酔は使用する薬剤や濃度によって運動神経ブロックを少なくしたり、痛みを取り除いたりすることができます。分娩時には痛みは緩和され娩出力は温存して、子宮の収縮は妊婦さんに感じてもらいなが娩出してもらうのが理想です。このために、

- ①なるべく運動神経ブロックを起こさない薬剤を投与する。
- ②濃度の薄い麻酔薬を使用する
- ③トータル麻酔量を少なくする。

以上の3点を考慮しながら麻酔薬の投与量や方法を決めていきます。



最近の無痛分娩は①に対してはアナペイン®やポプスカイン®などの運動神経ブロックの少ない局所麻酔薬を使用します。②に対しては少量のオピオイドを用いることによって濃度の低い局所麻酔薬で痛みを緩和することができます。そして、当院では③に対してCADD®-Solis PIBという器械を使用します。

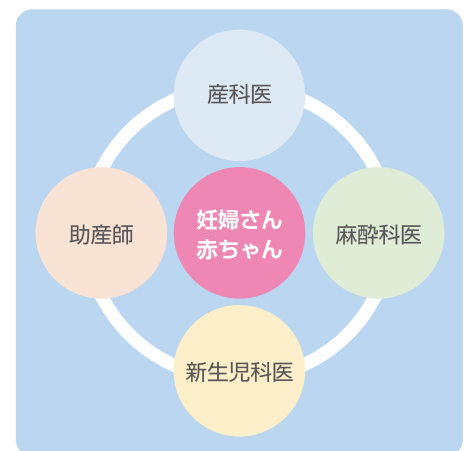
PIBとはProgrammed Intermittent Bolus:自動間欠的投与方法というもので、たとえば1時間に1回8mlの局所麻酔薬をボラスで投与することができます。1時間あたり同じ投与量であれば持続で局所麻酔薬を投与するよりもボラスで投与の方がより少ない局所麻酔薬量で痛みのコントロールができることが分かってきています。また運動神経ブロックも有意に低くなり分娩遷延のリスクの軽減が期待できます。

千船病院の産科・麻酔科の取り組み

無痛分娩の情報はネット、口コミを始めいろいろなものがあります。しかし、本当に信頼できて妊婦さんが納得のいくものは少ないように感じています。そのため当院では無痛分娩を受けて頂く予定の妊婦さんには全員、「無痛分娩教室」を受講していただいています。無痛分娩教室では硬膜外麻酔、分娩の進行などの説明を30分間行い、後半30分は妊婦さんからの質問にお応えしています。毎回この質問コーナーは盛り上がり、妊婦さんからも「不安に思っていたことが解決できた」と好評をいただいています。因みにこの無痛分娩教室はまだ当院を受診されていない方、妊娠されていない方、ご家族、どなたでも受講していただくことができます。

また無痛分娩を受けられる妊婦さんは全員に既往歴、合併症、背中の触診などを事前に診る「無痛分娩外来」を受けていただいています。実際の分娩に至るまでに2度麻酔科医と接することにより妊婦さんの安心、そして風通しの良い関係を作って行きたいと考えています。

安全面ではJALA(無痛分娩関係学会・団体連絡協議会)の「無痛分娩安全講習会」を定期的を開催することで、院内の安全はもとより、無痛分娩の安全性を向上する啓蒙活動に積極的に取り組んでいます。



最後に

赤ちゃんにとっては人生のはじまり、お母様、お父様にとっては新しい家族が増えるその瞬間に立ち会えることをとても嬉しく思っています。その嬉しい瞬間がより安全で安心で幸せに満ちたものになるようスタッフ一同でお手伝いできることを嬉しく思っています。今後とも地域の皆様に少しでも貢献できるよう精進していきたくて考えております。

当院の大腿骨近位部骨折地域連携パスへの取り組み

「第10回大阪西部地域連携合同研究会」開催報告

令和元年9月14日(土)に当院にて「大阪西部地域連携合同研究会～大腿骨近位部骨折患者の地域連携パス始動を目指して～」が開催されました。

二部構成で行われ、第一部は「大腿骨近位部骨折に対する治療の現状とその問題点」というテーマで大腿骨近位部骨折に関する疫学や当院での治療、当院で取り組んできた多職種連携パスの紹介、また地域連携パスの必要性などについてお話させていただきました。また講演の最後には、骨粗鬆症マネージャーの資格を持つたむら整形外科の看護師さんにも骨粗鬆症マネージャーについて詳しくご紹介いただきました。【写真1】

第二部は「地域連携パス作成に関するディスカッション会」ということで、当院のスタッフ及び回復期病院や診療所の医師・コメディカルスタッフを交えて、地域連携パスの現状や問題点、要望などを話し合いました。地域連携パスと言いながら、回復期病院から診療所へは全く連携できていないことなど、とても貴重な意見を聞くことができました。【写真2】



整形外科
医長 藁田 正也



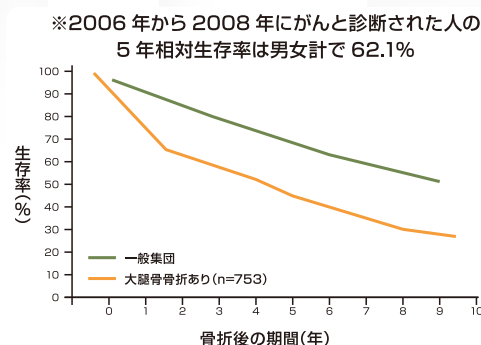
【写真1】第一部



【写真2】第二部

大腿骨近位部骨折に対する多職種連携パスの始動

大腿骨近位部骨折は年々増加傾向にあり、年間20万人以上の発生が予測されています。5年生存率はおおよそ45%と言われており、がんと診断された人のそれより悪いと言われています【図1】。大腿骨近位部骨折の生命予後を規定する因子は様々ありますが、なかでも我々医療者の努力によって改善できる因子として、「長期入院」と「術後の寝たきりレベル」に着目し、これらを改善する一番の策として、「手術待機時間の短縮」が言われています。最近、各医療機関でもこれらの意識が上がってきておりますが、当科では早期に注目し、各科・各部署協力のもと、2018年度より多職種連携パスを始動させました。これにより全国平均が4.27日と報告されている中、1.25日まで手術待機期間を短縮させることができました。



【図1】大腿骨近位部骨折の生存率

大腿骨近位部骨折の地域連携パスの作成に向けて

大腿骨近位部骨折は75%もの人が、初回骨折から2年以内に対側骨折を起こすと言われており、骨粗鬆症治療の継続が何より重要です。従来の地域連携パスでは、手術を行う急性期病院から回復期病院への連携に重きが置かれた一方向型連携パスであり、退院後は骨粗鬆症治療が継続されているのかさえわからない状況です。従って、我々は、回復期病院退院後も確実に患者を把握できるような循環型連携パスとして、新しい地域連携パス、真の意味での地域連携パスを作成するべく、現在奮闘中です。

「医療・介護従事者向け研修会」開催のお知らせ

定期的に地域の医療・介護従事者の方々にもご参加いただけるような学術講演会を開催させていただいております。お忙しい折とは存じますが、お気軽にご参加賜りますようお願い申し上げます。

● 今後の開催予定 ●

千船病院学術講演会

■ 11月21日(木) 17:30～18:30 場 所：千船病院 1階 講堂

「当院の保険診療はどうなっているか？」 講師：千船病院 医事科 科長 清水 香織

「個人情報取り扱いと安全管理」 講師：千船病院 事務部 次長 大谷 はるか

■ 12月19日(木) 17:30～18:30 場 所：千船病院 1階 講堂

「感染関係（決まり次第案内）」 講師：大阪労災病院 小児科 川村 尚久 先生

第11回大阪西部地域連携合同研究会

■ 11月30日(土) 15:00～

場 所：ブリーゼプラザ 8階(805号室) 大阪市北区梅田 2-4-9

「最新の骨粗鬆症治療の動向」

講師：大阪大学大学院医学系研究科 運動器再生医学共同研究講座

特任講師 蛸名 耕介 先生

認知症トータルマネジメントセミナー

■ 12月5日(木) 18:30～19:30 場 所：千船病院 1階 講堂

「認知症と見逃しやすいてんかん^(仮題)」 講師：千船病院 脳卒中内科 主任部長 瀧本 裕 先生

お申込みはFAX・メール・はがきで受付けております。

FAX 06-6474-0161

メール chiikiiryoka@chp.aijinkai.or.jp

はがき 〒555-0034 大阪市西淀川区福町 3-2-39 千船病院 地域医療科 (担当：田中・佐々木) 宛

千船病院(千船クリニック)は医療を通じて社会に貢献します

基本方針

- ・患者さまに質の良い医療を提供します
- ・患者さまのプライバシーと権利を守ります
- ・患者さまに安心と満足の頂ける公正な医療を提供します
- ・開放型病院としての役割を自覚し効率の良い地域医療を提供します

社会医療法人 愛仁会

千船病院

大阪市西淀川区福町三丁目2番39号

TEL 06-6471-9541(代表)

06-6473-9765(地域医療科直通)

FAX 06-6474-0161(地域医療科直通)

<https://www.chibune-hsp.jp>

